



神山天文台マスコットキャラクター
ほしみるちゃん®

Schedule 今月の開館スケジュール

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3 × 文化の日	4 神山祭 部展 10:00~18:00
5 神山祭 部展 10:00~18:00 	6 神山祭 部展 10:00~16:00	7	8	9	10	11
12 ×	13 ← 荒木望遠鏡メンテナンスのため、3階天体観測ドームを 見学できないことがあります →	14	15	16	17	18 × 荒木望遠鏡 メンテナンスのため 観望会休止
19 ×	20 	21	22	23 × 勤労感謝の日	24	25 × 荒木望遠鏡 メンテナンスのため 観望会休止
26 ×	27 	28	29	30		

施設見学 9:00~16:30
土曜日は天体観望会実施日のみ 14:30~20:00

天体観望会 18:00~20:00
(定員あり/要予約)

× 休館日

月の形 (満月・新月・半月および
観望会で月が見えるとき)

事務室閉室日
(問い合わせ等対応不可)

施設見学

1階常設展示フロアでは「望遠鏡 × 宇宙探査」、また、3階では荒木望遠鏡 (国内私立大学最大口径の反射式望遠鏡) の見学が可能です。11月13日~17日は荒木望遠鏡メンテナンスにより3階を見学できないことがあります。

天体観望会

荒木望遠鏡や小型望遠鏡で天体を観察することができ、天文台専門スタッフが望遠鏡や天体について解説を行います。
また、宇宙の3D映像上映会を開催します。
(コンテンツは予告なく変更する場合があります)

よくある質問 ?

観望会でよく聞かれる
質問にお答えします★

? なぜドームに暖房を入れないの?

ドーム内に暖房を入れると、暖かい空気が冷たい上空へ上昇するため、かげろうのような空気の揺らぎが発生します。かげろうを通して見る星は、ゆらゆらと揺らぎ、星の像がよく見えなくなります。そのため、寒い日も、ドーム内に暖房を入れることはできません。また、お昼間に暖まった空気が溜まらないように、あらかじめ観測前にはドームスリットや小窓を開け、外気となじませています。

? M15 や M31... 「M」 って何を表すの?

荒木望遠鏡を使っでの観望会では、「MOO」とご案内する天体を見ることもあります。この「M」は 300 年ほど前のフランスの天文学者シャルル・メシエさんにちなんだものです。彗星を発見するのにまぎらわしい、ぼやっとした天体たちをリストアップした「メシエ・カタログ」を作りました。110 個のうち 3 つは欠番です。星雲、星団、銀河...とさまざまな種類の天体が、一年を通して楽しめます。

? 私の誕生日は 2 月でうお座生まれなのですが、なぜ秋の夜空にうお座が見えるの?

星占いは、誕生日と星座を結びつけて、性格や運勢を占います。太陽や月や惑星たちは、星座を作っている星とはちがひ、星座の中を動いていこうに見えます。太陽などの通り道にあるのが、星占いの 12 星座です。誕生日のころ、自分の星座の近くには太陽があります。太陽がある星座ということは、お昼に空にあって、太陽と一緒にしずみまわります。誕生日の夜に自分の星座を見ることはできません。昔の人は、太陽がその星座にいるときを大切に考えたんですね。

神山天文台サポートチームが活躍!

学内外イベントのご案内

お出かけしやすい秋は、イベントもたくさん! 神山天文台サポートチーム (通称神サポ) が学外へお出かけし、子ども向けの体験イベントに出展予定です。ぜひご参加ください! (詳しくは各イベント HP を参照ください)

神山祭 神山天文台サポートチーム部展
「神山天文台を知ろう!」
日時: 11月4日(土)~6日(月)
10:00~18:00 (6日は16:00まで)
会場: 京都産業大学 神山天文台

青少年のための科学の祭典 京都大会
「星座万華鏡を作ろう!」
日時: 11月11日(土)・12日(日)
10:00~16:30 (12日は16:00まで)
会場: 京都市青少年科学センターおよび
京エココロジーセンター

土星のおはなし

荒木望遠鏡だと土星の環まで見ることができるんだね。

土星の環の傾きは毎年違って見えるんだって! 15年に一度、環がほとんど見えなくなる時期もあるんだ。

2017年 2025年 2032年

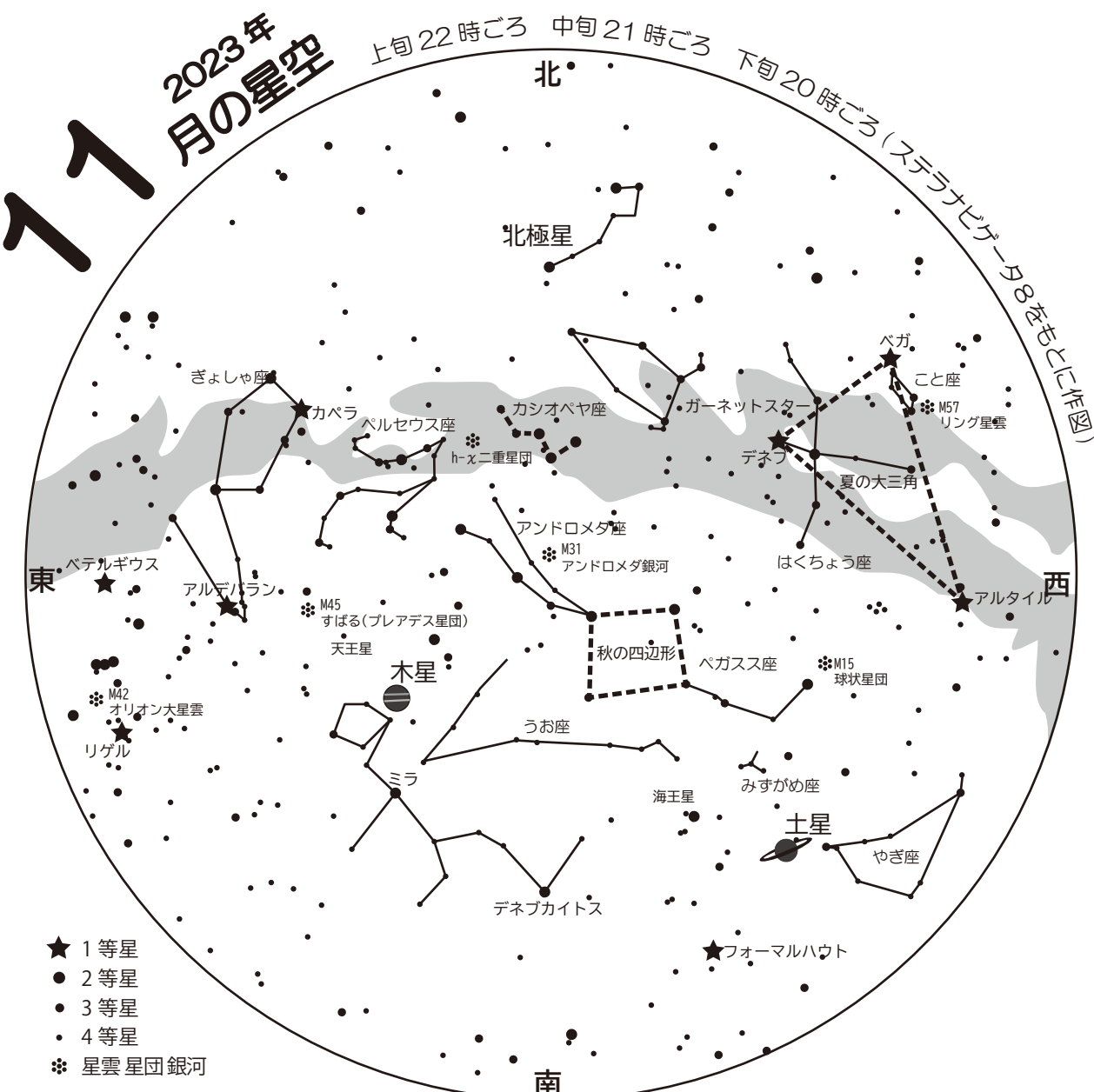
なんと、大きさは地球の約10倍ほど! 望遠鏡だとあんなに小さく見えるのに、実はとっても大きいんだね。

地球 ↓

他の惑星はどうなんだろう? 調べてみると、意外な発見があるかもしれないよ!

※実際の地球と土星の距離はイラストのとおりではありません

2023年11月見ごろの天体



★木星 (もくせい) : Jupiter

木星は東～南の空に圧倒的な輝きで目立っています。木星は太陽系最大の惑星で直径は地球の約11倍もあります。望遠鏡を使うと、縞模様と周りをまわる衛星のうち数個を見ることができます。縞模様の正体は、大気中に含まれるアンモニアやメタンでできた雲の模様です。木星の特徴的な模様は大赤斑があります。大赤斑は周囲に比べ温度が低いことから高気圧性の嵐と考えられており、その大きさは地球のおよそ2-3倍もあります。

★海王星 (かいおうせい) と天王星 (てんのうせい) : Neptune, Uranus

海王星と天王星は、地球と太陽の間の距離の約30倍(約45億km)と約20倍(約30億km)、太陽から離れて回る惑星です。肉眼で見えることはできませんが、大気に含まれるメタンが赤い光を吸収するため、望遠鏡でのぞくと海王星は青色っぽく、天王星は青緑っぽく見えます。天王星は自転軸が90度倒れた「横倒し」の惑星です。

★二重星 (にじゅうせい) : Double star

二重星は、肉眼では1つの星ですが、望遠鏡で見ると2つの星に見える星です。はくちょう座のくちばしに輝くアルビレオや、アンドロメダ座のガンマ星(アルマク)も色の対比が美しい二重星です。2つの星の色の違いは、星の表面温度の違いを表しており、青い方が温度が高い星です。

★散開星団 (さんかいせいだん) : Open cluster

ペルセウス座にある2つの散開星団h-x(エイチ・カイ)が見頃です。それぞれの星団には、数十個から数百個以上もの星が密集している様子が見えます。荒木望遠鏡では狭い範囲を拡大するため、2つの散開星団のうちどちらか1つを見ることとなります。恒星は、ガスの濃いところで集団で生まれ、h-xのような、若い星たちが集まった散開星団となります。やがて、散開星団の星たちは、時間が経つと少しずつ離れていくと考えられています。

★球状星団 (きゅうじょうせいだん) : Globular cluster

ペガサス座のM15、みずがめ座のM2などの球状星団が見られる季節です。球状星団は、数十万の恒星の集まりです。夜空が暗く澄んでいる晩に荒木望遠鏡をのぞくと、最初はぼんやりとしか見えないかもしれませんが、目が慣れると、まるで黒い画用紙の上に白い砂粒をまいたように見える姿は圧巻です。

木星が観望シーズンに

木星が宵の空では東～南の空に圧倒的な輝きで目立っています。11月3日に衝となり、一晩中見ることができます(衝とは太陽系の天体が、地球から見て太陽とちょうど反対側になる瞬間のことです)。また、木星を望遠鏡で観望する時に注目したいのは、木星の「縞模様」と、4つの「ガリレオ衛星」です。縞模様とともに、「大赤斑(だいせきはん)」という楕円形の模様もわかるかもしれません。木星の周りを公転しているガリレオ衛星は、時間がたつにつれて、位置関係が変わっていきます。

木星の近くにある天王星、西の空へと傾きつつある土星・海王星も楽しめますので、神山天文台の天体観望会でぜひ観察してみましょう!